CIBIE
TISSOT
RENAULT SPORT
elf
elf
devil

SHONAN
HISTORIC

car
MAGAZINE

WEEKEND MEETING car MAGAZINE From Creative Boutique NEKO to NEKO PUBLISHING Since 1978

Car MAGAZINE Weekend Meeting 2019 Spring in Oiso

誌面を抜け出し 読者の皆さんとコミュニケーション

毎年、春と秋の恒例イベントとして親しまれている『カー・マガジン・ウィークエンドミーティング』は、クルマ好きが思わず笑顔になる自然体の催しだ。

text & photo : Hidenori TAKAKUWA（高桑秀典）
Takuo YOSHIDA（吉田拓生）*Yoshiro YAMADA*（山田芳朗）
photo : Satoshi KAMIMURA（神村 聖）*Keigo YAMAMOTO*（山本佳吾）
Ryota SATO（佐藤亮太）*Izuru ENDO*（遠藤イヅル）

この春も大磯ロングビーチの第一・第二駐車場を会場として『カー・マガジン・ウィークエンドミーティング』を開催することができた。大磯が会場となってから早いもので5回目を迎えた当イベントは、カー・マガジンの編集スタッフとライター陣が協力して作っている読者ミーティングだ。参加費は無料で、2輪、4輪、メーカーや年式などの制限もなく、誰でも参加できる催しとして実施している。

肩ひじを張らないで気軽に参加できる点が受けているのか、去る3月30日のミーティングには参加台数およそ800台、来場者約1000人という規模での盛大なイベントとなった。朝早くから開場待ちの長い車列ができ、8時の入場開始時刻を早めたほどだ。この秋も開催予定なので、是非ともご自慢の愛車で参加していただきたい。

さて、今回の『カー・マガジン・ウィークエンドミーティング』では、読者の皆さんと編集スタッフがコミュニケーションをとる、という基本コンセプトのもとで6つの見所を設けた。

具体的には、ヒストリックカーや最新のスポーツカーに乗ることができる "趣味車同乗試乗会"、取材ネタを求めて皆さんの愛車を拝見する編集スタッフの "会場練り歩き"、ラジコン、スロットカー、射的を楽しめ、新旧・大小モデルカーが展示・販売された "キッズ & ミニカーコーナー"、クラシック・ミニの誕生60周年を記念した "モンテカルロ・スタンプラリー"、たっぷりお買い物を楽しめる出店ブース＆お腹を満たせる "キッチンカー"、そして2台の新型アルピーヌA110と6台のクラシックA110が共演した "スクランブル・ショールーム アルピーヌ" といったコンテンツだ。

前回の読者ミーティング時から、建物の1・2階を使い、テーマ性を持ったコンテンツを展開するようになったが、今回2階に設けたミニカーなどの展示コーナーには数多くの子どもたちが訪れた。ちなみに1階では先に紹介した "スクランブル・ショールーム アルピーヌ" を開催。趣味車同乗試乗会では、編集スタッフや協力ライターが来場いただいた皆さんといっぱいお話しすることもできた。

たくさんの新しい出会いがあり、もっと、こうしたらイベントが盛り上がるんだな、という気づきもあったので、それらのことを順次反映し、さらにコンテンツを充実させていくことにしたい。（高桑）

New & Classic Alpine A110

新旧A110が展示スペースをジャック

今回の大磯で最も注目されたメイクスは新旧のA110がずらりと揃うことになったアルピーヌだった。昨年デビューを果たしたばかりで、ライトウェイトスポーツカー・ファンが今最も注目している1台である新型アルピーヌA110。だがその人気や個性的なスタイリングのモチーフとなったのは、もちろんラリーシーンで活躍した往年のA110たちである。イベント当日、大磯ロングビーチのロッカーハウス1Fはアルピーヌ・ミュージアムへと早変わりし、極上コンディションのロードモデルや往年のラリーカーが展示された。趣味車同乗試乗会では最新モデルのアルピーヌA110が鮮やかなテールスライドによって小気味よくスラロームを駆け抜ける姿が見られた。（吉田）

今回のイベントでクラシックA110の展示に協力してくれた『Berlinetta Hakoné Club』の面々。いずれもA110をこよなく愛し、維持しているオーナーたちである。

趣味車同乗試乗会でも人気の高かった新型アルピーヌA110。グレーの個体は上級グレードのA110リネージ。ブルーのモデルはベーシックなA110ピュアだ。

British Sport

英国の伝統と革新に触れる

英国を代表する2 大ライトウェイトスポーツカー・ブランドも大磯に登場した。ロータスはV6 エンジンを搭載したエキシージS の70 周年記念モデルとエリーゼ・シリーズの中でもパワフルなエリーゼ・スプリント220 を展示。趣味車同乗試乗会にはエリーゼが登場し、究極のライトウェイトスポーツならではの軽快な身のこなしでパッセンジャーを喜ばせていた。一方モーガンも4 気筒モデルの4/4 と最新の3.7 リッターのV6 エンジンを搭載したロードスターを展示し、その伝統的なスタイルによって注目を集めていた。（吉田）

左上は当日モーガン4/4の珍しい4シーター・モデルで参加していた御一行。国籍と服装がモーガンの雰囲気によく馴染んでいた。モーガン・ロードスターは同乗試乗会で驚くほどクイックな走りを披露していた。

Miniature car

メーカー系のブースも出店

建物2 階に展開されたキッズ&ミニカーコーナーでは、ラジコン(comshop.jpで発売中のVWビートル)、スロットカー、そしてミニカーをはじめとする各種景品をもらえる射的などを楽しめた。また、新旧・大小モデルカーが展示・販売された点もトピックで、今回は大手模型メーカーの京商が出店。本邦初公開となる『MILEZIM（ミレジム）』ブランドの各モデル等を販売したミニカー専門店 キッドボックスと共に来場者を迎えた。また、前回同様、KEN-1 HAYASHIBE カーイラストレーションがイラストを販売し、絶版モデルをはじめとするレアなミニカーをフジクリエイションが販売していた。（高桑）

前回の読者ミーティング時に同所で実施した『スーパーカー縁日』のコンセプトを引き継ぎ、キッズ&ミニカーコーナーを展開。ライター高桑の秘蔵コレクションも展示させてもらったところ、前回同様"カー消し"の評判がよかったので次回も持って行こうと画策中だ。今回、カー消しで遊べるコースを用意しなかったことを激しく後悔している。

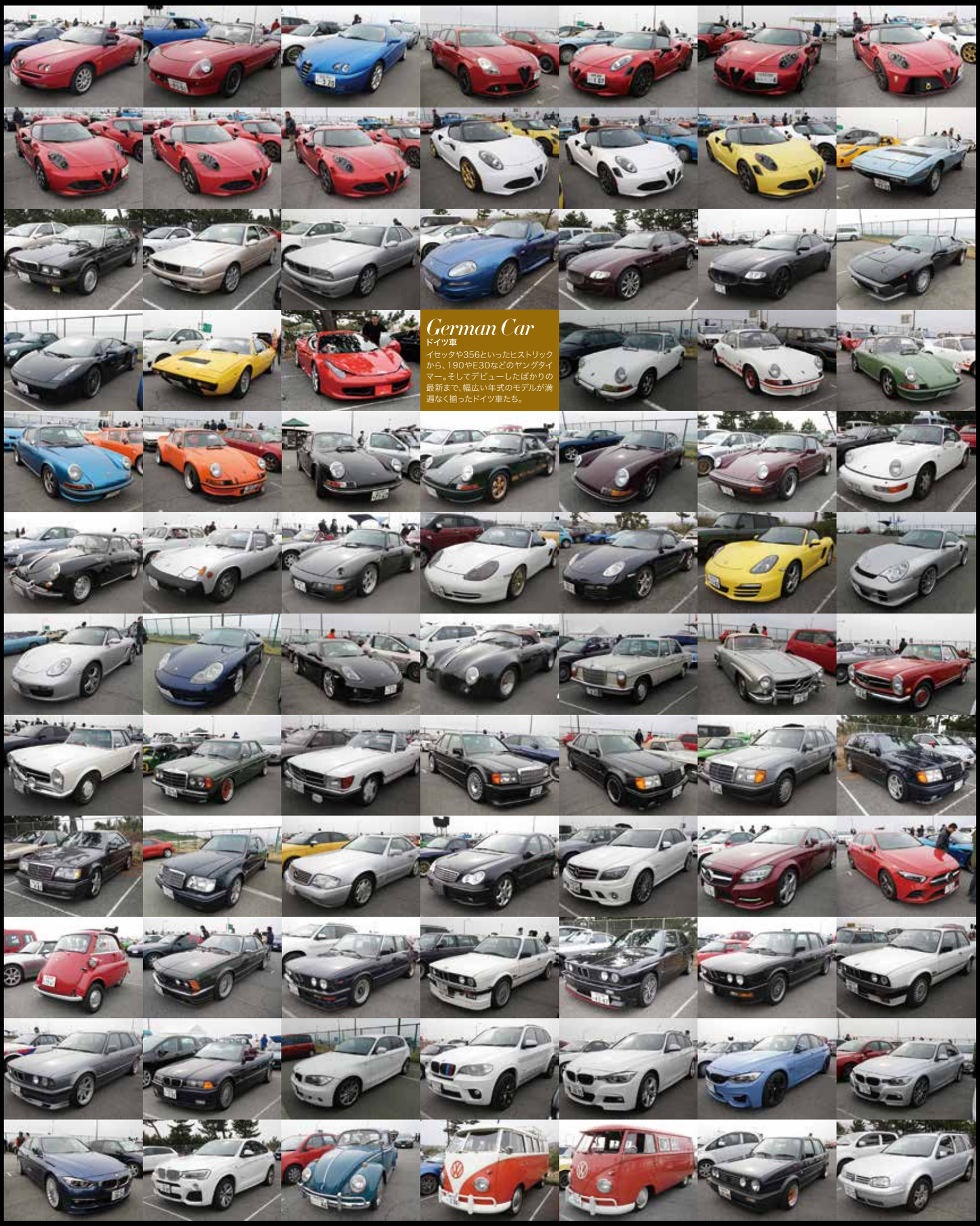
会場へ集まった趣味車たちを紹介! Part.1

広大な大磯ロングビーチ駐車場を、くまなく埋め尽くした来場車をご紹介。その数800台(!)に及んだため、残念ながら撮影モレも多数。まずはイタリア車、ドイツ車から!

Italian Car

イタリア車

会場をカラフルに彩った新旧イタリア車たち。オリジナルからモディファイまで楽しみ方はオーナーの数だけある。巻頭特集で取り上げたデルタは6+1台、4Cは9台も集結!。



German Car

ドイツ車

イセッタや356といったヒストリックから、190やE30などのヤングタイマー。そしてデビューしたばかりの最新まで、幅広い年式のモデルが満遍なく揃ったドイツ車たち。

フィアット800ベルリーナ（ガレーヂ伊太利屋クラシケ）、トライアンフ・ヴィテス（オート・メディック）、ロータス・エスプリS3&MG B（エヴィータ）、ロータス・エリーゼ（ガレージ イワサ）等を読者に提案。

ガレーヂ伊太利屋、オート・メディック、エヴィータ、ガレージ イワサ、ポルシェセンター横浜青葉、ダニー・ジェラルディン（ウェア販売）、アウトモデリ・ラムダ、OT オートモーティブ サービス、ノスタルジックオート三輪舎、ノスタルジックガレージ、マリブホビー、ロンバルディ、ロージーガーランドというショップのブースが大磯に出現。その他、個人によるオートジャンブルも展開され、掘り出し物を見つけることができた。（高桑）

Special Shop & Auto Jumble

魅力的かつ個性的なブースが勢揃い

ウェア、ミニカー、オートモビリア等も販売され、スペシャルショップ&オートジャンブル・コーナーは常に盛況だった。ヘナアートや木材（流木？）を使ったヘッドホンを披露するブースもあり、女性も楽しめたようだ。

Kitchen Car

美味しい軽食と飲み物でホッと一息

まだ春浅い大磯。肌寒い海風で冷えた身体を満たしてくれるキッチンカーはイベントの人気者だ。'63 年型VW タイプ2 で参加してくれたピッツァ・モンテコスタは、本格的な石窯を持つピザ屋さん。熱々のマルゲリータは早々に売り切れてしまう人気ぶりだった。同じく'63 年型のエアストリームでエスプレッソがいただけるカフェや、チャイも楽しめるワーゲンバスのカフェ、毎回来てくれるホットドッグスタンドも大人気。そして、地元神奈川や千葉の農家からしいれたお芋が楽しめる焼き芋屋さんも今回初参加。食も楽しみなウィークエンドミーティングなのだ。（山田）

エアストリームカフェ・バンビは、16フィートの可愛いエアストリーム、『バンビ』がキッチンカー。磨き上げられたジュラルミンボディが目印なのだ。

Marine Sport

海と陸を繋ぐ愉しみ

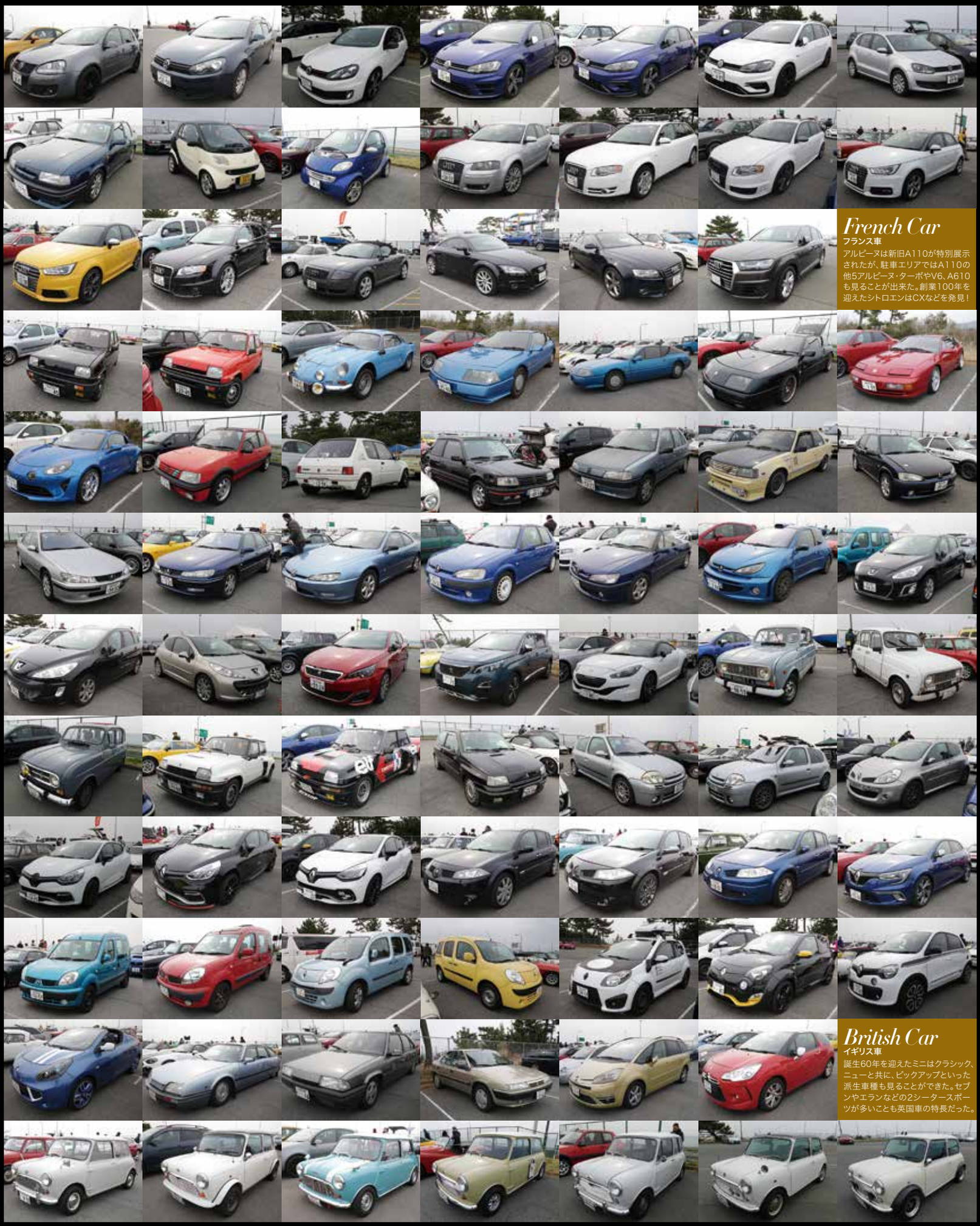
カー・マガジン・ウィークエンドミーティング2019 春の舞台となるのは西湘のシーサイド、大磯ロングビーチ。陸と海を結ぶ接点となる絶好のステージにヤマハが持ち込んだのは、クルマで牽引することができるトレーラブルな3 艇だった。パワフルな4 駆モデルで愛艇を海辺に持ち込み、遊びの幅を大海原まで広げてみる。それは乗り物を愛するファナティックたちの究極の夢でもあるに違いない。トーイングボートのヤマハ212X はウェイクボードに最適な1 艇だが、ファミリーユースにも対応するキャパシティを誇っており、クルマに例えると最新のスポーティSUV と言ったところ。マリンジェットはまさにオープン2 シーターのライトウェイトスポーツだ。　（吉田）

大磯の海をバックに展示されたヤマハのマリンジェット（水上バイク）と全長6.5mのトーイングボート、ヤマハ212X。会場では実機を眺めながら、その魅力と解説を受けることが出来た。

212Xは1.8リッター4気筒、170psエンジンの2基掛けというパワフルな動力性能を誇る。マリンジェットは左がフラッグシップモデルのMJ-FX Cruiser SVHO、右がエントリーモデルのMJ-EX Deluxe。

会場へ集まった趣味車たちを紹介！ Part.2

2シータースポーツからファミリーカーまで多種多様なクルマとオーナーが会場で見ることが出来た。ふらっと寄って楽しめる、そんなイベントなので家族連れの方も次回はゼヒ！



French Car

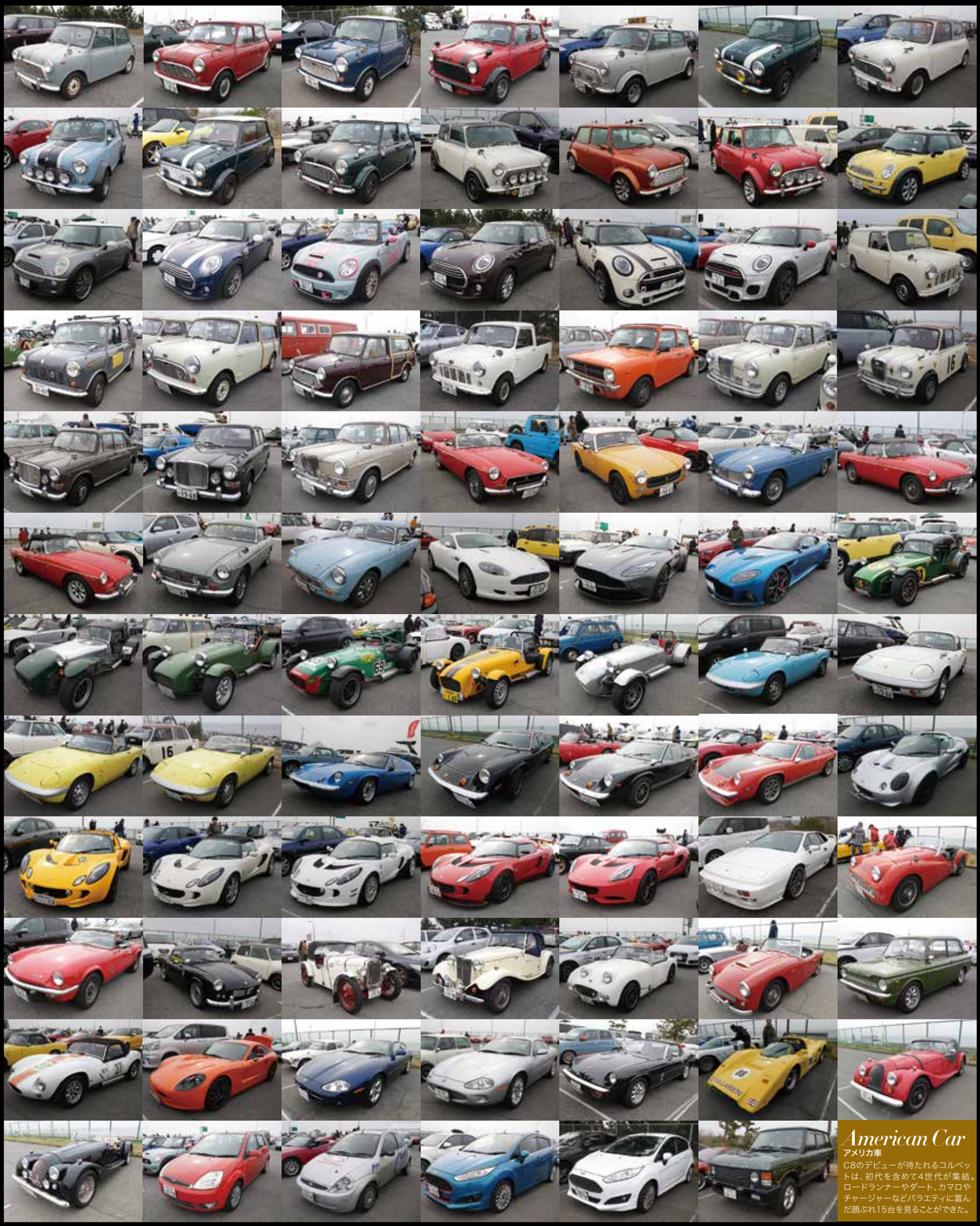
フランス車

アルピーヌは新旧A110が特別展示されたが、駐車エリアではA110の他5アルピーヌ・ターボやV6、A610も見ることが出来た。創業100年を迎えたシトロエンはCXなどを発見！

British Car

イギリス車

誕生60年を迎えたミニはクラシック、ニューと共に、ピックアップといった派生車種も見ることができた。セブンやエランなどの2シータースポーツが多いことも英国車の特長だった。



American Car

アメリカ車

C8のデビューが待たれるコルベットは、初代を含めて4世代が集結。ロードランナーやダート、カマロやチャージャーなどバラエティに富んだ顔ぶれ15台を見ることができた。

Special Drive

戦前のMGから最新モデルも登場

今回の趣味車同乗試乗会にもヒストリックカーから最新のスポーツカーまでが一堂に会した。ヒストリックカーの一部はカー・マガジンの愛車レポートに登場しているクルマだったので、水色号(アルファロメオGT1600 ジュニア)の近況報告で毎号誌面を飾らせてもらっている筆者も読者の皆さんを乗せて特設コースを走行した。第1グループで水色号を走らせ、第2グループではアルファロメオ・ステルヴィオ・クアドリフォリオのドライバーを担当したので、旧いアルファロメオの味わい深い走りとアルファ製SUV 最強モデルの強烈な走りの両方を体感していただくことができた。趣味車同乗試乗会は目玉企画のひとつなので、次回もお楽しみに。（高桑）

トゥクトゥクやMG NA、A110に911ターボS等などの助手席に乗れる同乗試乗会。お目当てのチンクに乗れた飯村史子さんも大満足。メガーヌRSの4コントロールを初体験した角田智恵美さんは「クイックに曲がるんですね」と感慨深げ。

写真未掲載分も含めて同乗試乗会には、スーパーセブン、フィアット500L改、GT1600ジュニア、フェアレディZ、エスプリS2、MG NA、トライアンフ・ヴィテス、トゥクトゥク、新型A110は2台、911ターボS、エリーゼ、モーガン・ロードスター、AMG S63カブリオレ、ステルヴィオ、メガーヌR.S.カップが登場した。

Car MAGAZINE Award

家族揃ってクルマ趣味を楽しむ姿がステキでした

今回も、ベスト・オブ・ウィークエンド(BOW)、ベストドレッサー、ベスト・ヤングタイマー（P80 〜参照）と3の章典を用意した。800台もの来場者の中からBOWに選んだのは、今となっては貴重な広島二桁のナンバーをつけた、黄色い初代ロードスターでお越しの吉浜さん。お世辞にも"程度極上"という状態ではないのだが、それでも長年にわたって適度に使い込まれて来た味があり、見れば助手席にはチャイルドシートが備わっていた。ウイークエンド・ミーティングを、子供と共に楽しむ場として活用していただけるとは我々としても光栄、大賞決定。ちなみに奥さまと3人以上で出かけるときのアシは、スズキ・スイフトスポーツだそうな。（長尾）

▲"親子仕様"のロードスターで、お子さんとふたりで大磯ロングビーチのイベント会場に遊びに来てくれた吉浜さん。イベント当日は奥さんに対し「今日は僕が子供と過ごすから、たまにはひとりでのんびり買い物を楽しんでくれば?」と、平成の名車に乗ったイクメンの気遣いが素敵。

◀ベストドレッサーは'67年式のポルシェ912に家族4人（!）乗りで参加の石野さん一家に決定。ヒストリック・ポルシェと若々しいご家族のマッチングの良さはクルマ趣味人なら誰でも憧れるに違いない。普段から使い込んでいるという912の風合いもすばらしい。

▼ミーティングの最後は、恒例のじゃんけん大会。商船三井フェリーからは大洗-苫小牧往復乗船券ペアを、ダニーさんからは貴重なポルシェのジャケットが提供された。その他にもミニカーやTシャツなど豪華賞品をかけて、編集長ナガオとの真剣勝負が繰り広げられた。

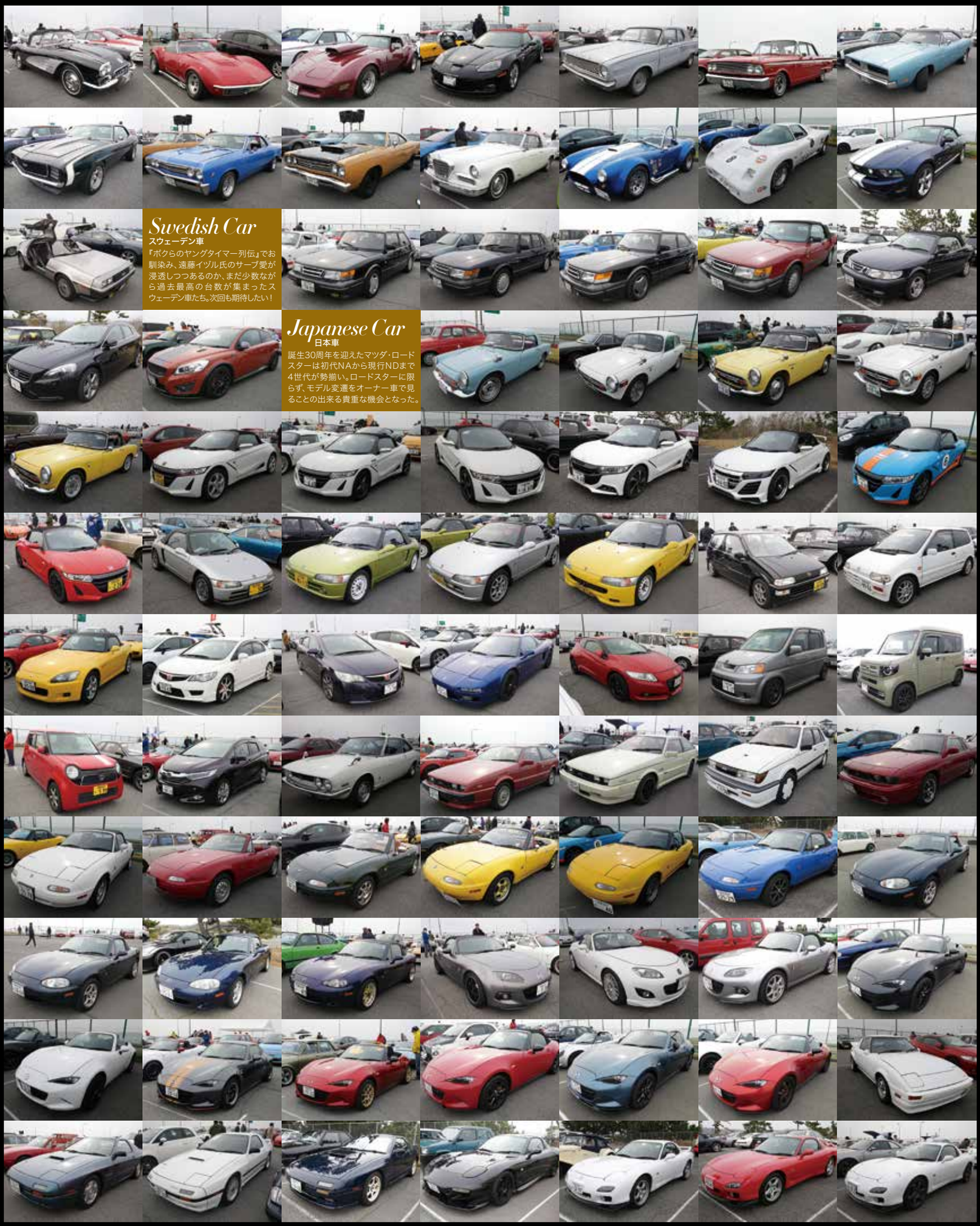
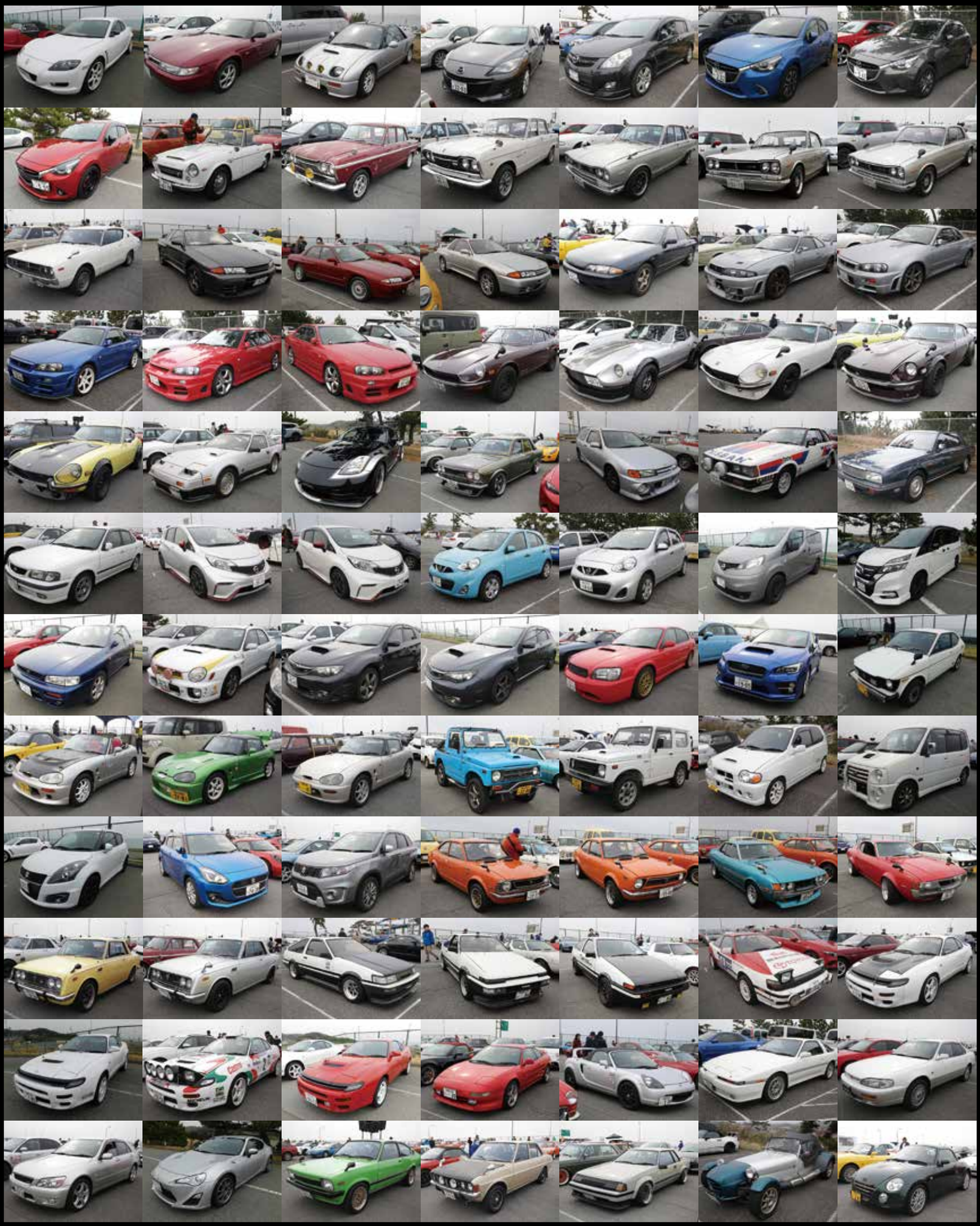
and more

お馴染みのレポート車は5台が集合

本誌『Our Own Cars』コーナーにて活動報告しているレポート車両は5台が集まった。いつかは、メンバー全員が勢揃いした光景をお披露目したいと思っている。その他、ミニ誕生60周年を記念したスタンプラリーも開催したのだが、想像を越える反響で、スタンプ用の台紙が早々に足りなくなるという事態に。この場をお借りしてお詫びいたします。

ケータハム・スーパーセブン、ランチア・イプシロン・モモデザイン、日産フェアレディZ、アルファロメオGT1600ジュニア、フィアット500L改と5台のレポート車が集い、その内4台が同乗試乗にも参加。プログラムの合間には同好の士と語らうことができ、編集部員や協力ライターも楽しい時間を過ごさせていただいた。

『モンテカルロ・スタンプラリー』では、'64年、'65年、'67年にモンテを制したミニのレジストレーションナンバー『33 EJB』、『AJB 44B』、『LBL 6D』のスタンプを用意。先着順にミニカーやステッカーなどの景品をプレゼントした。

会場へ集まった趣味車たちを紹介！ Part.3

国別参加車両の最多はやはり日本車で、次いでイタリア車、そして僅差ながらドイツ車、イギリス車が続き、以降はフランス車、アメリカ車、スウェーデン車の順となった。